国指定
重要文化財

常呂川河口遺跡
墓坑出土品

北見市ところ遺跡の森

「常呂川河口遺跡」とは？

東側上空から見た常呂川河口遺跡とその周辺（発掘調査以前）

常呂川河口遺跡は、常呂川の河口付近東岸部にある遺跡です。常呂川は、この場所で西側に大きく曲がって流れており、遺跡はその流路の内側に位置しています。

遺跡は、洪水対策のための放水路建設をきっかけに発見されました。調査の結果、縄文時代からアイヌ文化期にわたる、膨大な量の出土品とともに、多数の住居跡や墓が発掘されました。

常呂川河口遺跡墓坑出土品

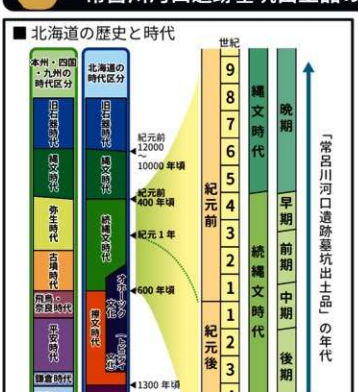
常呂川河口遺跡では、いろいろな用途で掘られた土坑（地面に掘った穴）が数多く見つかっています。このうち、墓として掘られた「墓坑」は 500 基以上あり、そのほとんどが縄文時代晩期から続縄文時代にかけて残されたものです（続縄文時代は北海道独自の時代区分で、本州における弥生時代・古墳時代とほぼ同じころに当たります）。

重要文化財「常呂川河口遺跡墓坑出土品」は、縄文時代晩期から続縄文時代の墓坑で発見された出土品のうち、代表的な資料から成っています。当時は、墓の中に貴重品や道具など、さまざまなものを埋める文化がありました。この文化の特徴をよく示す資料として、縄文時代の墓坑 12 基、続縄文時代の墓坑 86 基の出土品が指定を受けることになりました。

縄文時代晩期の墓坑（295a 号土坑）
11 個の土器がまとめて納められていました。

続縄文時代前期の墓坑（470 号土坑）
土器・石器・琥珀玉などが納められていました。

常呂川河口遺跡墓坑出土品の年代



常呂川河口遺跡墓坑出土品の中で最も古いものは、縄文時代晩期後半のものです。年代的には、紀元前８～９世紀までさかのぼると推定されるものがあります。

最も新しいものは、３～４世紀頃のものです。続縄文時代は、早期から晩期の５つの時期に分けることができますが、そのうち後期後半に相当するものです。

常呂川河口遺跡墓坑出土品からは、実に1000年以上にわたって、北海道東部における埋葬の文化の歴史をたどることができるのです。

常呂川河口遺跡墓坑出土品の内訳

重要文化財に指定されるのは、墓坑98基からの出土品1805点です。これは、個々の出土品の評価というよりも、墓坑の出土品の構成がよく分かるという、まとまった資料としての学術的価値が評価されたものです。全体の内訳は以下の通りとなっています。

●土器・土製品　１３７点
- 深鉢形土器・・・・・・・・・・・・・５７点
- 浅鉢形土器・・・・・・・・・・・・・７点
- 壺形土器・・・・・・・・・・・・・６点
- 双口土器・・・・・・・・・・・・・１点
- 注口土器・・・・・・・・・・・・・５点
- 小形土器・・・・・・・・・・・・・５８点
- 土製品・・・・・・・・・・・・・３点

●石器・石製品　１４５９点
- 石鏃・・・・・・・・・・・・・１０５３点
- 石槍・・・・・・・・・・・・・１７点
- ナイフ・削器・掻器・錐・両面加工石器・・・２４９点
- 異形石器・・・・・・・・・・・・・８点
- 磨製石斧・・・・・・・・・・・・・５３点
- 石剣・・・・・・・・・・・・・１点
- 砥石・・・・・・・・・・・・・１６点
- 磨石・敲石・凹石・・・・・・・・・１１点
- 棒状原石・・・・・・・・・・・・・２８点
- 球状原石・・・・・・・・・・・・・６点
- 石核・・・・・・・・・・・・・２点
- 剥片・・・・・・・・・・・・・１５点

●装身具　２０４点
※同種・同形の玉から成る首飾りは、まとめて１点として数えている場合があります。

●鉄製品　４点
- 刀子・・・・・・・・・・・・・３点
- 斧・・・・・・・・・・・・・１点

●赤漆塗櫛残欠　１点

【合計　１８０５点】

▶▶▶　次のページから、出土品の特徴を時期別にご紹介していきます。

縄文時代晩期の墓坑出土品

（紀元前 9 ～紀元前 5 世紀頃・約 2900 ～ 2400 年前）

この時代の墓坑出土品は、土器や石器が中心です。土器には奇抜なデザインのものや赤い彩色のあるものが見られます。また、勾玉や丸玉などの装身具も少数見つかっていますが、その中には希少な硬玉（翡翠）を使ったものもありました。

墓に納められた土器

© 佐藤雅彦（写真事務所クリーク）

【295a 号土坑の出土土器】

この時期の北海道東部を代表する「幣舞式土器」11 個がまとめて納められていました。中には、人面状の文様のある土器（写真中央）や表面に赤彩の残る土器もあります。

© 佐藤雅彦（写真事務所クリーク）

硬玉と漆製品

【782 号土坑の出土品】

硬玉（翡翠）製の玉と漆塗りの櫛の断片。櫛は歯の部分が残っていません。

硬玉は新潟県糸魚川が産地であり、また北海道には自生しない漆を使った製品もあることから、本州方面との交流を示す出土品と言えます。

墓に納められた石器

石鏃（石製の矢じり）

削器

磨製石斧

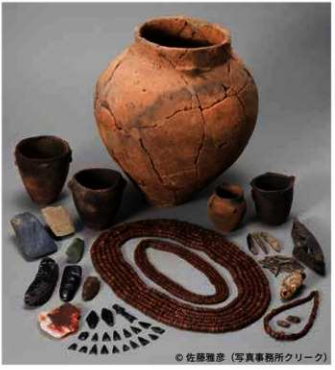
【797a 号土坑の出土石器】

幣舞式土器とセットで墓に納められていた石器です。石鏃に茎（柄に取り付けるための出っ張り）の付いたものが多いのは、この時期の特徴です。（写真縮尺：約 50%）

続縄文時代早期～中期の墓坑出土品

（紀元前 4 ～紀元 1 世紀頃・約 2400 ～ 1900 年前）

常呂川河口遺跡ではこの時期の墓坑が最も多く見つかっており、墓に品物を納める風習が盛んになったことが分かります。特に、琥珀製の首飾りをはじめとした装身具の存在が特徴的です。



© 佐藤雅彦（写真事務所クリーク）

多数の品物を納めた墓

【470 号土坑の出土品】

墓によって、納められる品物の量や種類には差がありました。これは、墓に埋葬された人の社会的地位の差を反映していると推定されています。

この墓では、約 2400 点の琥珀玉から成る首飾りのほか、各種の石器や土器が納められており、同時期の北海道全体で比べてみても、かなり豪華な内容をもっています。族長のような有力な立場の人物の墓だったのではないでしょうか。

墓に納められた土器

墓に納められた土器の中には、ほとんど破損せずに残っていたものもあります。千数百年以上の年月を経ても、つい最近作られたかのようにきれいな状態を保っており、大変貴重なものです。

941 号土坑
早期・興津式土器

634 号土坑
前期・宇津内 IIa 式土器

829 号土坑
前期・宇津内 IIa 式土器

1408 号土坑
中期・宇津内 IIb 式土器

墓に納められた石器

【1406 号土坑の出土石器】

最も多くの石器が入っていた墓で、石鏃だけで 333 点ありました。一緒に見つかった石製ナイフは、この時期に特徴的な石器の 1 つです。
（写真縮尺：約 50%）

石鏃

石製ナイフ

磨製石斧

続縄文時代早期～中期の首飾り

（紀元前 4 ～紀元 1 世紀頃・約 2400 ～ 1900 年前）

続縄文時代早期～中期の墓坑には、サハリン産と推定される琥珀玉を使った首飾りを納めたものが多くあります。琥珀玉の形や組み合わせは時期によって変化していきました。

【718 号土坑】

【577a 号土坑】

原石形状を生かした琥珀玉

原石に近い状態の琥珀に穴をあけたものです。琥珀玉の中でも古い時期の特徴をもつと考えられるもので、続縄文時代早期に多く見られます。（写真縮尺：約 50%）

成形加工された琥珀玉

原石を成形加工した琥珀玉は、続縄文時代早期の墓からも見つかりますが、前期にはさらに大量に使われるようになります。中心に穴のある円形のものが基本ですが、星形など変わった形が混じる場合もあります。

頁岩など、別の石材で作った垂飾（ペンダント）と組み合わせる場合もありました。

（写真縮尺：約 50%）

【1313 号土坑】

【941 号土坑】

【1046a 号土坑】

【608 号土坑】

【1012 号土坑】

管玉と組み合わされた琥珀玉

統縄文時代中期になると、円形の琥珀玉に混じって管玉が使われるようになります。管玉は渡島半島から本州以南に多く見られるもので、南からの文化の影響を受けたものと考えられます。

（写真縮尺：約 50%）

【22a 号 /884a 号土坑】

◀碧玉製 (左)・メノウ製 (右) 管玉

管玉の中には、珍しい石材を使ったものがあります。特に碧玉は佐渡島産と考えられるもので、北海道東部では非常に珍しいものです。

（写真縮尺：約 50%）

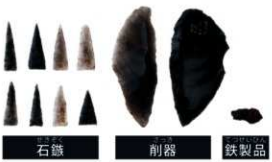
続縄文時代後期の墓坑出土品

（紀元 2 ～ 4 世紀頃・約 1900 ～ 1600 年前）

続縄文時代後期になると、道央部からの影響を受けて作られた後北 C_1 式・後北 C_2・D 式土器が、道東部にも広まりました。それとともに、琥珀玉は使われなくなり、代わってガラス玉が現れます。また、わずかながら鉄製品が使われ始めました。

後北 C_1 式土器を伴う墓坑の出土品

後北 C_1 式土器



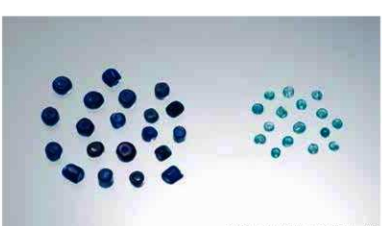
石鏃　削器　鉄製品

【157 号土坑の出土品】
石鏃は細身で薄い形態のものが特徴的です。一緒に見つかった鉄製品は、刀子（小刀）の断片であると考えられます。
（石器・鉄製品の写真縮尺：約 50%）

後北 C_2・D 式土器を伴う墓坑の出土品

【988a 号土坑の出土品】
後北 C_2・D 式土器はこの時期、北海道全域に広まったタイプの土器です。
一緒に石器と鉄製刀子が出土していますが、鉄製品は当時、まだ非常に貴重なものでした。

© 佐藤雅彦（写真事務所クリーク）



© 佐藤雅彦（写真事務所クリーク）

ガラス玉

【300 号土坑 (左)・994 号土坑 (右) 出土】
ガラス玉は、濃青色のものと水色のものとが見つかっています。
ガラスの成分分析では、原料が中国大陸に由来するという結果が得られており、北海道外から入手したと考えられるものです。

「常呂川河口遺跡墓坑出土品」の出土地と公開施設

ところ遺跡の森

常呂川河口遺跡墓坑出土品が施設内に展示されています。

常呂遺跡（国指定史跡の範囲）

A. 常呂竪穴群
B1. 栄浦第二遺跡
B2. 栄浦第一遺跡
C. 岐阜台地西部竪穴群
D. トコロチャシ跡遺跡群

その他の遺跡

国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図「サロマ湖東部」・「常呂」を元に作成

国指定重要文化財「常呂川河口遺跡墓坑出土品」解説資料

発行：令和 5 年 2 月

製作：北見市ところ遺跡の森

〒093-0216　北海道北見市常呂町字栄浦 371

Tel :0152-54-3393/Fax : 0152-54-3538

ウェブサイト：https://www.city.kitami.lg.jp/detail.php?content=8321